

## I U U 漁業撲滅に向けた漁業管理システム構築事業 [拡充] 【8（8）百万円】

### 対策のポイント

水産資源の持続的利用と海洋環境の保全のために、I U U（違法・無報告・無規制）漁業の撲滅に向け、発展途上国において地域の実情に沿った漁業管理システムを構築します。

### <背景／課題>

- ・環太平洋圏の発展途上国沿岸は、生物多様性が高く、我が国が公海等で漁獲する漁業資源にとっても重要な産卵・育成の場です。
- ・しかし近年、I U U（違法・無報告・無規制）漁業による水産資源の乱獲により漁場環境が悪化しており、I U U 漁業対策は世界的な問題となっています。

### 政策目標

発展途上国（インドネシア等）を対象に、I U U 漁業の撲滅に係る漁業管理技術や高度な養殖技術等を教授し、事業完了時までに対象国で約100人を対象に人材育成を行います。

### <主な内容>

#### I U U 漁業撲滅に向けた漁業管理システム構築事業 8（8）百万円

北太平洋海洋科学機関（P I C E S）において、水産資源の持続的利用と健全かつ生産的な海洋環境の保全のために、環太平洋の先進国と発展途上国が協力し、赤潮発生やI U U 漁業に関する情報等をリアルタイムに収集し、現場のニーズに適した被害を軽減するための技術の教授等の取組に対して支援します。

〔 拠出先：北太平洋海洋科学機関（P I C E S）  
事業実施期間：平成29年度～平成31年度 〕

お問い合わせ先：

〔 大臣官房海外投資・協力グループ （03-3502-5913）  
水産庁研究指導課 （03-3502-0358） 〕

# IUU漁業撲滅に向けた漁業管理システム構築事業

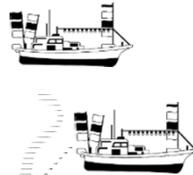
## 事業概要・目的

温暖化等気候変動による漁場環境の変化や乱獲・汚染等人間の活動による海洋環境の悪化

○気候変動に伴う、赤潮発生頻度や種類の変化、食植生物の増加による藻場縮小は漁業生産に深刻な影響をもたらし、漁業生産の不安定化は、IUU漁業を招く原因となっている。



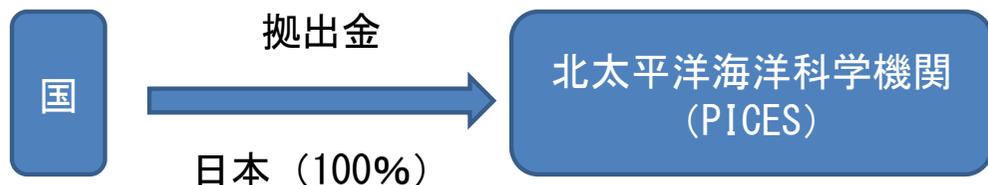
○インドネシアにも多く生息しているビカーラ種ウナギを含む**全てのウナギ種の資源状況等について調査することが、ワシントン条約締結会議(CITES)で決定された。**



➡**発展途上国沿岸の科学的情報は乏しく、対策の強化が急務**

環太平洋におけるIUU状況を改善し、重要な漁獲対象種の生育環境に関する科学的情報の収集・研究を行い、地域の実情に沿った持続的かつ安定的な漁業管理システムを構築

## 資金の流れ



## 事業イメージ・具体例

(1) 地域の実情に沿った資源管理、漁業管理、操業ルールの設定等の管理方策の構築を支援

(2) 水質の管理・浄化、斃死対策等の技術を支援

(3) 赤潮発生や水質悪化、IUU漁業等に関するリアルタイム情報を現地の漁業者から収集

(4) 上記(1)～(3)を運営・政策化するための人材育成、データベースの構築及びマニュアルの作成



従来の支援に加え、赤潮発生やIUU漁業等のリアルタイム情報を収集し、被害軽減のための科学的な支援を強化

## 期待される効果

海外の優良漁場において、IUU漁業の撲滅を念頭に、漁業者自らが管理する日本型漁業管理システムを実現

我が国にとって重要な漁場の持続性・生産安定性を確保  
PICES等の国際機関における日本の発言力強化